時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

第三千六百六十七號
明治廿六年五月廿七日　土曜日
舊暦癸巳四月十二日（甲子）
日出午前四時三十分　日入午後六時四十六分
月出午後三時四十六分　月入午前二時二十三分
滿潮午前二時五十七分　午後三時二十三分
（西暦一千八百九十三年）

時事新報新定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜休刊
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報

世に新事業なきにあらず

實業の振はざるは資本なきが故なり苟も資本さへあれば彼の利興す可く此業成る可しとは我輩の常に聞く所なりしに近日に至りて經濟の事情を一轉し遊金漸く多く利率漸く下落し尚ほ其用法を得ざるに苦しむ者多きみろ好機會なれ爰に有利の興業談あれば響に應して資金の來る可きは勢の當然なるに實際に於て然らざるは何ぞや或は遊金の餘るが爲めに鐵道その他諸會社の株券を買ふ者を增したるは事實に相違なしと雖ども是皆當來の事業にして新計畫と稱すべきものにあらざるべければ歸する處は有志者に企業の念なきにあらざれども未だ格好の事業に思ひ當らざるが爲めならん依て今某氏の談話中に就て考案の大要を記さんに

第一、綿布製造所の設立如何　と考ふるに將來頗る有望なるべし近來我紡績業は著しく進歩して輸出を試みんとする程の勢となりたれば此の絲を用ゐて綿布を織る事業より困難の業にあらず然るに尚ほ依然として金巾、天竺、更紗の輸入を外國に待つ所以のものは要するに興業家の奮發足らざるが爲めのみ故に今より進んで綿布製造所を内地に設立して徐に其擴張を謀らば必ず有利の一事業となるべし

第二、砂糖精製所の設立如何　砂糖の需要は年毎に增加して其輸入莫大なるを以て此際大に外國の粗製品を輸入し内地に於て之を精製するの業を起さば今より一層廉價を以て廣く精品を内國に供給し其間相當の利益を見るべき事　疑ひなからん

第三、卷煙草製造所の設立如何　外國製の紙卷煙草追々に輸入するを見て内地の煙草商中には夙に此の製造を創めたるものあれども其仕掛の小なると方法の宜しきを得ざるが爲めに精良の品を製するみと能はさるが如し依て外國の例に倣ひ玆に大仕掛の製造所を設立し原料の精撰より製造の上に萬端心を用ゐば其販路忽ち全國に擴まりて利益蓋し少小にあらざるべし

第四、陶器製造所の設立如何　我邦の陶器は外國の需要に適して將來の得意幾んど無限なるにも拘らず曾て海外の注文に應じて千萬個の同品を美事に取揃へ以て外人を滿足せしめたるの例あるを聞かざるは畢竟製造方の小仕掛なるが爲めのみ實に陶器の原料は天然に存して盡くるみとなき其上に燃料の石炭は供給充分にして職工の賃銀至て廉なる我邦に於て大仕掛の陶器製造所を起さば多々益々海外の需に應じて商運自から目出度かるべきは論を待たざるべし今日の掛念は其計畫にあらずして唯資本なきの一事なるのみ

第五、硝子製造所の設立如何　工業漸く發達すれば小仕掛の事業は次第に中央の一點に集まり中央の機關は漸く整ふて漸く大となり以て益々其業の盛大を致すべきは自然の勢なるにも拘らず我硝子製造の有樣を察すれば進歩甚だ遲々たるが如し現に東京の一市内を見渡したる處にても硝子器械の製造に從事し居るものなかく多しと雖ども大抵皆小仕掛にして顧るに足るものなし遺憾の事と云ふべし故に有志有金の士は此際大に資金を合して一大硝子會社を起し巧に社務を宰して盛に製造の業を營まば其利益あるや又疑ふべからず

第六、車製造所の設立如何　器具の種類樣々なる其中にも趣味の要なきものは千萬の個數を悉く一律一體に製造したりとて毫も事に害なくして用に損なきのみならず斯くの如くにして愈々製造の手際を顯し價も隨て廉なるを得べし即ち人力車及び諸車の如きは就中趣味を要せざるものにして何れの部分も千萬輛の同形に出づるを嫌ふべきの廉なく又機械の力を借らずして形を成すべきの點あるとなければ玆に大なる車製造所を設け一切機械の仕掛を以て盛に諸車を造り出さば必ず有利の事業となるべし試に最近の統計に依て全國の馬車、人力車、荷車、牛車の總數を見るに九十八萬四千餘輛にして其中人力車は凡ろ十八萬輛なりといふ左れば此の諸車の欠損を補ふべき新規車輛の總數の三分の一を新製造所に於て引受くるものと假定するも尚ほ充分の望みあるを見るべし

第七、疊製造所の設立如何　疊は本邦人の居住に欠くべからざるの要品なれども其床の製造法に至りては僅に手足の力を賴む位にして如何にも手温き業なれば少しく資本を投じて水壓器を適用し簡易に何百枚にても製造し得る事となれば必ず一廉の商賣となりて製造所の利益少なからざるべし

以上は某氏の心に浮びたる儘を語り出で其語りたる儘を記したるものなれば中には實行の望み甚だ少なきが如くに見ゆるものもあるべきかなれどもみは唯立案の大要に過ぎざるを以ていよ〳〵之を實地に試みんとする其時には先づ利害得失の計算より着手の順序方法等巨細の事に渉りて尚ほ充分の考案熟慮を要すべきや勿論の話なれども其邊の注意は當局者の責任として我輩は唯其思付の要旨を摘記して以て興業に志あるもの〻參考に供せんと欲するのみ

官報

〇内務省訓令第十號　道廳府縣

醫師藥劑師産婆廢業死亡ノモノハ自今其廳ニ於テ免狀ヲ燒棄シ毎年十二月迄ニ届出ヲ受ケタル分左ノ書式ニ據リ調整シ翌年一月十五日限リ當省ヘ報告スヘシ
紛失等ニ依リ免狀返納セサルモノアルトキハ前項ノ期限ニ拘ハラス事實ヲ詳記シ其都度報告スヘシ

明治二十六年五月二十六日　内務大臣伯爵井上馨

（書式略ス）

〇内務省告示第三十號

一忍みま愛　一册　愛知縣中島郡山形村大字子生和五十三番戸櫻井滋一郎發行

右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁止ス

明治二十六年五月二十六日　内務大臣伯爵井上馨

雜報

〇海軍各官廳判任の配置　海軍省にては今回の改革に依り管下各官廳の判任配置に異同を生じたるに付左の如く配置する旨一兩日前通達せりと

横須賀建築科	技師一人、書記三人、技手六人
吳同	技師二人、書記二人、技手六人
佐世保同	同　同　同
横須賀衣糧庫	上等兵曹一人、主帳二人、書記五人
吳同	主帳二人、書記三人
佐世保同	主帳二人、書記二人
横須賀艦營需品庫	上等兵曹二人、機關師一人、船匠師一人、機關手一人、船匠手一人、書記四人
吳同	上等兵曹一人、機關師一人、船匠師一人、書記二人
佐世保同	上等兵曹一人、機關師一人、船匠師一人、書記一人
海軍中央司計部	書記七人
横須賀司計部	同　五人
吳同	同　四人
佐世保同	同　四人
横須賀海軍監獄	監獄長一人、監獄書記二人、監獄看守長四人、同看守十三人
吳同	監獄長一人、同書記二人、同看守長三人、同看守十二人、
佐世保同	監獄長一人、同書記二人、看守長三人、同看守十八人

〇自由黨の會合日　自由黨に於ては板垣總理の歸京を待て第五期議會に對する運動の方法及び政務調査等に關する協議を爲す筈なるか夫迄の所は在京黨員は毎月曜日を期し芝山内なる事務所に會合し臨時必要の事件に就き協議する事に決せりと

〇自由黨支社設置の箇所　自由黨本部にては曩きに檄を全國の黨員に傳へて來る六月三十日迄に各府縣共支社設置の場所及役員の姓名等を本部に報告すべき旨を合せし所奈良、新潟、栃木、福井の四縣よりは既に支社の位置、及び幹事、事務員、常議員の氏名に規約書を添へ報告に及べりと云ふ

〇信州に於ける松田氏一行　長野縣下豐科町の有志者は一昨二十四日自由黨特派員松田正久氏の一行を招聘し懇親會を開きし所出席者三百餘名にして席上松田正久、江原素六、龍野周一郎三氏の演説ありて非常の盛會なりしが即席
餘名ありし由夫れよ
開きしに聽衆二千餘
々熱心に論辨し去て
福嶋驛へ赴きし旨一昨

〇北海道協會幹事
に付近衛會頭を始め
の諸幹事は木挽町厚生
の方法に關し種々協議
りし汽車汽船の運賃割
き既に承諾せし會社
多きに依り是等に向て
を爲せしが日本鐵道會
らんと云へり又毎月
が多分來月より發行の

〇來年徴募屯田兵
ては來る二十七年に
戶、砲工兩兵各三十戶
右徴募兵の移住地は
ユーベオツ、騎砲工各
にて來月早々工事請
築に着手する都合な

〇諏訪瀨嶋の噴
は去る十九日の午前
汽船金剛丸が鹿兒嶋
り霧嶋山の噴火の如
人は孰れも驚きしが
も其後は絶えて噴火の

〇針道村大火後
如く去る十五日福嶋
民は頗る慘狀を極め
の報告達したりと
本年五月十五日午
民農大内文之助方
遂に全燒百三十三
慘狀を極めたる一
占め小屋掛を受く
受くるもの七十二
出火の原因は平素
められ候

〇なぐさ

●投票競爭の秘密
青年俳優の投票に就
前號のなぐさみ欄内
迫するに伴れ其熱度
と甲の俳優を愛顧す
甲が平素眷遇厚き大
の裏を突んと心掛る
つゝある花月樓の外
小厮を使はず又各連
求するみとを務め成
さるを要し居れりと
せし人本社へ遣て來
購求したしとのみと
少なに買り出し五百
明日本社より配達す
掛け合ひたるに然ら
取りに來るべしとて